

日本建築学会北海道支部
2006 年度 通常総会

日時 2006 年 5 月 19 日 (金)
会場 北海道第二水産ビル

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2006 年度総会議案

2005 年度事業報告

1. 支部運営の諸会合の開催

総会

期日 2005 年 5 月 20 日
会場 北海道第二水産ビル
出席正会員 39 名 (委任状 27 通)

当支部地域在住正会員 944 名の 30 分の 1、31 名以上の出席により成立
2004 年度事業報告及び収支決算、ならびに 2005 年度事業計画方針案及び予算案を審議し、
異議なく可決承認された。

常議員会

6 回開催

常任幹事会

8 回開催

選挙管理委員会

1 回開催

2. 学術系委員会の活動

2.1 学術委員会 (主査:野口 孝博君 委員数 16名 委員会開催数4回)

主な活動状況を委員会議題などで要約する。

第 1 回目 (6月17日); 本部学術推進委員会報告 (以下本部報告) 各専門委員会及び特定課題研究
委員会活動状況報告、支部研究発表会進捗状況報告、支部長諮問事項検討WG

第 2 回目 (9月27日); 本部報告、各専門委員会活動状況報告、支部研究発表会総括及び次年度開
催校 (北海道東海大学・旭川) 決定、大賞候補審議、支部長諮問事項検討WG

第 3 回目 (12月08日); 本部報告、各専門委員会活動状況報告、建築文化週間報告及び次年度募集
について、特定課題研究の募集について、支部研究発表会論文募集について、支部長諮問事
項検討WG

第 4 回目 (2月24日); 本部報告、各専門委員会及び特定課題研究委員会活動状況報告、
次年度建築文化週間企画採用審査、次年度特定課題研究採用審査、支部研究発表会進捗状況
報告、平成19年度支部研究発表会開催校について、支部長諮問事項検討WG

2.2 専門委員会の活動

材料施工専門委員会 (主査:濱 幸雄君 委員数 22 名 委員会開催数 6 回)

本年度は、専門委員会を2ヶ月に1回程度の割合で、計6回開催した。委員会では、本部材料施工
本委員会など各種委員会報告や諮問事項についての検討し、材料・施工に関する情報や意見の交
換を行った。また、興味ある話題や今日的な話題について事前に担当者を決め報告をしていただ
き、最近の研究動向について意見の交換を行った。

2005 年 10 月 19 日に「北 8 西 3 東地区第一種市街地再開発事業」(札幌市北区北 8 西 3、施工:
大成建設、地下 1 階、地上 40 階、RC 造) および「(仮称) ニッセイ札幌プロジェクト」(札幌市
中央区北 3 西 4 施工:大林組、地下 2 階、地上 23 階、S 造) の施工現場見学会を行った。また、
2006 年 2 月 15 日にホテルノースシティで開催された 2005 年度支部共通事業「鉄筋コンクリート
造建築物の収縮ひび割れ制御設計・施工指針(案)・同解説」講習会への協力を行った。道内巡回
講演会「超高層建築と技術の進展(講師:有江暢亮委員)」を 2006 年 2 月 10 日に美唄工業高校に
て実施した。

構造専門委員会（主査：桜井修次君 委員数 20 名+オブザーバー1名 委員会開催数 4 回）

定期的に委員会を開催して構造関連の情報交換を行い、下記の活動を行った。特に、北海道で自然災害を生じた場合の迅速な被害調査体制の必要性を協議し、次年度の特定研究課題へ申請した。また、委員会活動をより活発化するため日本建築構造技術者協会（JSCA）北海道支部と協力して2つの講演会を行った。

- 1) 委員会開催：例年どおり委員会を4回行った（6月28日、8月29日、12月14日、3月13日、このうち8月と3月はメールにより開催）
- 2) 施工現場見学会：2005年10月19日に下記の2つの建物の見学を行った。いずれも制震装置を有する高層ビルである。（仮称）ニッセイ札幌プロジェクト 北8西3東地区第1種市街地再開発事業。参加者30名。
- 3) 工業高校巡回講演会（室蘭工業高校）：2006年1月26日「建物の地震被害と構造設計」溝口光男君（室工大）
- 4) 講演会：2005年9月28日「限界耐力計算の考え方」北大・緑川光正君。
2006年3月29日「振動制御による耐震改修と地震防災」北大・菊地優君。
- 5) 特定研究課題の申請：「地震等による建築災害調査方法の研究」第4回学術委員会で採用決定。

環境工学専門委員会（主査：石田 秀樹君 委員数 29 名 委員会開催数 6 回）

本年度は、2ヶ月に1回程度の割合で専門委員会を開催し、環境工学本委員会など各委員会の報告や、各委員からの最新の話題提供などを通じて、環境に関する情報交換や勉強会を行った。

北方系住宅専門委員会と共同の特定課題研究委員会「中高層マンションの外断熱改修研究委員会」や北海道建築技術協会の「断熱建物の夏対応研究WG」への研究協力を行い、小樽市で施工中の外断熱マンションや、外断熱工法により竣工した天使大学の現場見学会を実施した。

また、2006年度「特色ある支部活動企画」として、道の基幹産業として重要な農業分野への建築技術の応用を目的とした「積雪寒冷気候を生かした低コスト貯蔵技術による農業生産環境改善への貢献」を応募し採用された。

建築計画専門委員会（主査：門谷 眞一郎君 委員数 21 名 委員会開催数 5 回（ネットミーティングを含む））

前年度に引き続き「特色ある住民参加型の建築計画事例の発掘」をテーマに委員会活動を展開した。また、建築計画分野の個々の関心や研究テーマなどが多岐にわたること、事例や研究成果の日常的などの情報交換にCMS（Content Management System）を委員会独自に持つことも必要との議論から、データベースにも活用できるXOOPSの導入を検討した。2005年度はコストの問題からLinuxでサーバをローカルネットワーク上に立てXOOPSの環境構築とサイトの基本計画を行った。その概要は支部研究発表会で公表の予定。

都市計画専門委員会（主査：瀬戸口 剛君 委員数 14 名 委員会開催数 4 回）

都市計画委員会では北海道の諸都市で課題となっている、コンパクトシティとまちなか居住に関する研究会やシンポジウムを一貫して続けている。平成17年度はおもに4つの活動を進めた。

アメリカカリフォルニア大学バークレイ校ピーター・ボッセルマン教授の講演会「Urban Design in San Francisco」を7月14日に行い、約50名の参加者を得て、都心部の再生に関わる積極的な議論を行った。函館で進められている「街なか居住研究会」とともに、函館のまちなか居住に関する研究会を1月28日に行った。現地で街なか居住のモデル対象地とモデル提案を見学し、意見交換を行っている。北海道の都市計画やまちづくり職能のあり方を研究する「まちづくりプラットフォーム」を継続し、6月1日および10月21日に研究会を行った。「まちづくりプラットフォーム」は都市計画委員会の運営する組織で、委員以外の積極的な参加を促している。学会会長直属の組織である「まちづくり支援建築会議」の立ち上げに当たって、当委員会から積極的にメンバーが参加登録している。「まちづくりセミナー」にも委員会から参加している。

歴史意匠専門委員会（主査：伊藤 大介君 委員数 20 名 委員会開催数 4 回）

例年どおり、道内各地の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用に関する情報を委員間で共有して、必要に応じて学会として社会に発言する活動を行った。2004年度から文化庁、

北海道教育委員会の調査に協力し、それを発展させる形で特定課題研究の「北海道近代和風建築調査研究委員会」を継続した。委託研究として、「小樽駅舎保存活用に関する調査」をJR北海道から受け、報告書を作成した。また市民への啓蒙活動として、建築文化週間中の10月15日に「小樽の歴史的建造物の今と未来 - 今を見る・未来を語る」と題する建築見学会とシンポジウムを実施し、55名の一般参加者を得た。

北方系住宅専門委員会（主査：絵内 正道君 委員数 23名 委員会開催数 5回）

本年度は、委員会の継続テーマである社会資本としての住宅及び地球環境時代の生き方について話し合ったほか、支部長諮問事項について検討した。また二つの大きな行事を企画、実施した。一つは6月24日、25日の二日間にわたって「北方圏域における豊かなパブリックスペースの創造」をメインテーマに開かれた国際フォーラムである。国内外の招待講演者、発表者十数人を含めて50人規模の会議（北海道大学構内の遠遊学舎）及びワークショップ（市内の公園視察と児童館での遊び場の模型製作・討論等）が開催された。もう一つは建築文化週間行事として実施された「地球社会の生き方探し 田園の生活にふれて」（市民参加による小規模体験型ワークショップ）である。10月1日、土曜日の午後半日バスを利用して当別田園住宅を訪れ、当地に住み着いて田園の暮らしを楽しむ移住者たちと話し合いを行った。

都市防災専門委員会（主査：南 慎一君 委員数 21名 委員会開催数 2回、通信委員会 7回、WG複数回）

建築学会災害委員会市民企画講座「津波防災まちづくりシンポジウム in おくしり」の企画、運営を行い、報告書（CD-R）を作成しHPに掲載した。また、近畿支部市民企画講座「市民防災講座」に参画し、支部の連携をとった。他学協会との連携では自然災害研究協議会北海道地区防災フォーラムを共催し、参画した。自然災害調査関係では、災害委員会からのパキスタン北部地震の強震記録、調査団、調査速報の情報提供を行い、また、アメリカのハリケーン災害情報HP作成に協力した。

報告書：(社)日本建築学会市民企画講座「津波防災まちづくり in おくしり」(CD-R)

2.3 特定課題研究委員会の実施

(2004年度より)

北海道近代和風建築調査研究委員会（主査：羽深 久夫君 委員数：19名 委員会開催数：3回）

2004年度より3ヶ年計画で進められている文化庁・北海道教育委員会の「北海道近代和風建築総合調査」と連携しながら、2004年度より北海道内の市町村教育委員会と協力して明治元年（1868）から昭和39年（1964）までに建築された和風意匠をそなえた歴史的建造物の保存活用を図るための基本台帳整備をめざし、道内14支庁において遺構確認を含めた悉皆調査を行った。建築名称・所有者・建築年代・建築種類・資料の有無・設計者及び施工者・位置図・写真・建築的特徴の所見の項目からなる調査票を作成するとともに、建築的特徴が重要と考えられる物件については、平面の実測調査を行った。その結果、14支庁の行政区分ごとに、住宅・社寺を中心として種々の建築において特徴ある和風意匠を確認することができた。

初年度の研究成果は、日本建築学会北海道支部北海道近代和風建築調査研究委員会：「北海道の歴史的建造物における和風意匠の展開過程」（日本建築学会北海道支部研究報告集 No.78、pp.347~350、2005.7）において報告したが、2ヶ年の研究成果も北海道支部第79回研究発表会にて報告予定である。

旧軍施設委員会（主査：川島 洋一君 委員数：11名 委員会開催数 4回）

当委員会の目的は明治後期から北方防備として旭川等に設営された第7師団が国費を投じて多くの施設を建設したがその多くは解体されているが、棟数は少ないが現存建物も各地に点在していることから、これらの建物の概要や技術意匠等を明らかにし、北海道の近代建築史の一側面を明らかにする事であり、本研究の最終年である2年目の本年度は、これまでに調査したト・チ力のコンクリート強度実験等と、すでに解体調査が実施されていた鉄骨、組積造施設の記録整理分析を

実施。前者の強度実験では、大樹町に現存する二箇所(支部報告 No77,78)のト - チカで天井面と外壁内壁面から供試体(コア)を取り出して圧縮実験を実施し現在のコンクリ - トより 3 割程度低く、また中性化試験では断面全体に紅変反応があり中性化が進んでいないとの結果が得られた。そして解体調査記録等の整理分析では煉瓦外壁鉄骨小屋組の覆馬場 2 棟(歩兵、工兵連隊)、軍用水道煉瓦造揚水棟一棟、更に基礎と外壁コンクリ - トで木造小屋組の通信棟一棟について分析等を実施した。

これらの研究成果から、旧軍施設のコンクリ - ト造は大正末期からの学校建築に、煉瓦造では師団設営時から倉庫、工場建築にその建築形態技術・意匠等に影響を与えたと言え、詳細は今年度の支部研究発表会で公表予定。

また当委員会主催のシンポジウム「明治期における旧陸軍の建築技術意匠と民間建築への普及」を 2006 年 2 月旭川で実施した事を付記する。

(2005 年度より)

寒中コンクリート調査研究委員会(主査:深瀬 孝之君 委員数:13 名 委員会開催数 委員会:4 回、アンケート郵送作業:1 回)

寒中コンクリートにおける調査手法の利用状況や現行指針に対する評価などを把握するために、道内のプラント・施工会社を対象としたアンケート調査を実施した。今後、この調査結果から寒中コンクリートに関する技術的課題を抽出し、その課題解決に向けた取り組みを行う。

アンケート調査の概要

- ・調査期間:2006/2/1~2/28
- ・調査対象:道内に所在するプラント、施工会社(管理部門・作業所)
- ・アンケート配布数と回収数

対象者	配布数	回収数
プラント	289	206
施工者(管理部門)	338	83
施工者(作業所)	-	119

2.4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

(2005 年度より)

中高層マンションの外断熱改修研究委員会(主査:佐藤 潤平君 委員数 14 名 委員会開催数 8 回)

当委員会の目的は、2004 年に札幌市内で実現した、11 階建てのマンション(大通ハイム)の外断熱改修を実例として、外断熱改修に至った過程や改修コストについて分析すると共に、経済、室内環境、エネルギーなど改修に関わる総合的な評価を行い、中高層民間分譲マンションの外断熱改修システムの確立をめざすことである。

2005 年度は、8 回の委員会を開催し、札幌市内に建設されているマンションの現状を調査し、対象建物の調査と分析を行い、札幌のマンション建設の現状 外断熱改修工事の利点及び特徴 大通ハイムの改修実例の分析の 3 項目についてまとめた。

また、小樽市に建設中の外断熱マンションの現場見学会や対象建物での温湿度の実測を実施した。

3. 委託調査研究の受託

契約年月日	委託調査研究名	担当委員会(代表者)	委託者
2005.6.1	小樽駅舎保存活用に関わる調査業務委託	歴史意匠専門委員会 (主査 伊藤大介君)	北海道旅客鉄道(株)

受託の概要

(1) 小樽駅舎保存活用に関わる調査業務委託(受託金額:577,500円)

小樽駅舎の建築基礎データを収集し、その姿を明らかにすることによって、保存及び活用の考え方を整理し、小樽駅リノベーション事業の骨格となる既存建物部分の保存方針を考慮するための基本になるものであり、事業推進にあたり今後の判断材料とすることを目的とし報告した。

4. 支部研究発表会の実施(主査:千歩 修君 実行委員会委員18名、委員以外にWG7名)

研究報告集 No.78(収録数:123 編)を作成し、第78回支部研究発表会を以下のように開催した。

日時:2005年7月16日(土)

場所:釧路工業高等専門学校

参加者数:約180名

特別企画:記念講演会「藤森照信建築譚-再見・再考・再生-」

挨拶:城 攻(日本建築学会北海道支部長)

司会:駒木定正(北海道職業訓練大学校 教授)

講師:藤森照信(東京大学大学院 教授)

5. 表彰

5.1 北海道建築賞

(1) 北海道建築賞委員会の活動(主査:大萱 昭芳君 委員7名 委員会開催数4回(うち現地審査2回))

本委員会は1975年、北海道支部に表彰制度が設けられて以来、道内に建設された建築(アーバン・デザイン等の領域も含む)の中から本賞に相応しい作品を選考してきているが、今回で31回目となる。選考の基準としては、作品が有する「先進性」、「規範性」および「洗練度」の3つを掲げている。2005年度の審査対象は本建築賞への応募作品全8点、及び支部主催建築作品発表会における発表作品の中から審査委員が推薦した5点計13点とした。書類審査により選考された7点(関口雄揮記念美術館、KB、釧路こども遊学館、陸別町保健センター・診療所、垂直の森、中央警察署札幌駅前交番、sapporo55/順不同)について現地審査を行い、最終審査会で厳正かつ慎重に選考を行った結果、第31回北海道建築賞は「釧路こども遊学館」の設計に対して贈ることとなった。なお今回、奨励賞の授賞は見送られた。選考の経緯および作品講評はリーフレットにまとめ広く公表する。

審査員:

主査:大萱 昭芳君

委員:内田 光彦君 大矢 二郎君 小篠 隆生君 鈴木 敏司君 前川 公美夫君

山田 深君

(2) 受賞者

北海道建築賞

石黒 浩一郎君(アトリエブंक)

金箱 温春君(金箱構造設計事務所)

保科 文紀君(d.n.a.
元アトリエブंक所員)

作品名 「釧路こども遊学館」の設計

北海道建築奨励賞

<該当作品なし>

(3) 表彰規程および募集要項の改訂

懸案であった本賞の選考方法、選考時期、表彰形式等の見直しと、それに伴う表彰規程および募集要項の改訂に関し、本委員会で以下のような方針をまとめ、機関決定をまって随時実施することとした。

- 1) 北海道建築賞選考日程については、2007年度より骨子、下記の要領で行う。
 - ・ 応募期間：4月15日～5月15日（最終日が休日の場合は休日明けの最初の日まで）
 - ・ 書類審査：5月～6月
 - ・ 現地審査：7月～8月
 - ・ 結果発表：9月（ただし、同月の常議員会で承認を受けた上）
- 2) 表彰は10月の北海道建築賞授賞式で行い、同時に開催する受賞記念講演会と併せて「建築文化週間」の事業として扱う。
- 3) 募集要項中の応募手続の項に、自薦のほか、委員等の推薦を受けて応募する場合の手続きを明記する。

(4) 審査経緯

本年度第一回審査会は、全委員参加のもとに2005年12月14日、札幌市内で開催され、昨年までと同様の審査手順を確認したうえで審査対象作品の確定と第1次書類選考が行われた。審査対象作品は、建築賞応募作品全8点（～）に、支部主催「建築作品発表会」参加作品から委員による推薦作品5点（～）を加えた以下に示す13作品である。

応募作品（順不同）：

KZ - HOUSE（葛谷理俊君 / アトリエ RSN、国澤利光君 / ZEROM 国澤計画設計室）
函館宮前町カトリック教会（三輪数比古君 / マジックバスビルディングワークショップ
1級建築士事務所）
円山西町の家（松岡拓公雄君 / 滋賀県立大学、鈴木理君 / 鈴木理アトリエ）
省エネ住宅「エコキューブ」（平野伸泰君 / (有)エネシス）
札幌東宝ビル「札幌シャンテ」（徳本幸男君・本井和彦君 / 榊竹中工務店北海道支店）
関口雄揮記念美術館（徳本幸男君・本井和彦君 / 榊竹中工務店北海道支店）
sapporo.55（徳本幸男君・河合有人君・横尾淳一君 / 榊竹中工務店北海道支店）
アーバンネット札幌ビル（楠本正幸君 / NTT 都市開発(株)）

委員推薦作品（順不同）：

K B（画工房）
釧路こども遊学館（アトリエブク）
陸別保健センター・診療所（アトリエブク）
垂直の森（ヒココニシ設計事務所）
中央警察署札幌駅前交番（北海道工業大学 + 日本設計札幌支社）

これ以降の選考審査は、多数決でなく議論を通じて全委員の了解を得た作品とし、建築作品単体の評価規準は、コンセプトと設計プログラムおよび実体的表現の「先進性」、時間・空間軸における自然を含めた人間社会に対する「規範性」、それらを統合して美の創造に向かう建築体としての「洗練度」とした。

現地審査対象作品を選ぶ第1次書類選考は、各委員の個別評価と活発な議論の末に、現地審査対象作品として7作品 「関口雄揮記念美術館」・ 「sapporo.55」・ 「K B」・ 「釧路こども遊学館」・ 「陸別保健センター・診療所」・ 「垂直の森」・ 「中央警察署札幌駅前交番」を選定した。

この過程の中で「建築作品発表会」作品の明確な位置付けとして、委員推薦と応募手続きの関係が討議され、審査の公平性を期すために次年度からは従来どおりの委員推薦を必要条件、応募規定に定められた資料提出をもって応募作品としての十分条件を満たすとの合意を委員会の結論とした。

2006年2月21日に札幌市内の5作品・・・を委員7名（一部6名）、3月7日8日に道東地区の2作品・・・を委員4名で現地審査が行われた。

3月16日、札幌市内で第二回審査会が出席委員6名で開催された。各作品の現地審査結果として、1名の欠席委員からの提出書面を含めて全委員から意見が表明され、続いて各作品についての自由討議が行われたので以下にその要点を述べる。

「関口雄揮記念美術館」：大小2つのRC造閉鎖空間と中間に配された木造スケール鉄骨造の開放空間というシンプルな設計プログラムに特段の先進性は認められず、鉄骨部分の構造表現には論理的不調和が指摘される。鉄無垢角柱の選択によるスケールダウン、エコロジカルな空調システム、通行不可だった既設吊橋の再生による既存美術館とのネットワーク構築などに先進性を認めることができるが、いずれも部分的評価に留まる。

「sapporo.55」：札幌駅南口広場に面した公共用地に民間ビルを建設する事業コンペの実施作品で、屋内公共空間の確保と採算性の維持という複雑な要件を都市デザインとして実体化した企画プログラムの先進性と規範性は評価できる。しかし、トップライト採光の上部3層吹抜け空間で、内部の外部空間化と1・2層階部分で視界の立体化による賑わいの創出に挑戦した設計プログラムは、駅前広場との空間的連続性を持たず演出としての評価に留まる。外壁デザインにおける質感の希薄さを含め、全体的に建築としての洗練度に課題が残る。

「KB」：間口の狭い敷地に設計者自身のアトリエ用として建てられた5階建ての小さなビルで、一体化した門型のPC部材を水平垂直方向に連続展開して壁面と床面を構築した設計プログラムは、力強い素材感と構造の純粋性を形態化した隅角部の曲面が生み出す柔らかいリズム感とによって、新鮮な建築表現を創出すると同時に内部空間の最大化を達成している。この点での先進性は高い評価を得たが、対照的にファサード面を階段・設備空間で閉鎖したプログラムの弱点が浮かび上がる結果となり、隣接する住居建築との関係構築に対する疑義と合わせて規範性と洗練度において賛同を得られていない。

「釧路こども遊学館」：先進性・規範性・洗練度のすべてに対して全委員から賛辞が述べられ、北海道における公共建築のあり方と高い可能性を示した建築作品として北海道建築賞の候補作品となった。評価の詳細は別掲の審査講評に述べられているが、ガラスと構造斜材で構成された外皮部分に見られる建築表現としての曖昧さに対しては、欠点としてではなく、「こどもと市民に対する親和性」を獲得するための重要なデザイン表現として、むしろ評価すべき長所と解釈されたことを付記する。

「陸別保健センター・診療所」：複合化された公共建築として、2施設共通の開放空間に個別機能空間を並置するシンプルな基本プログラムの建築的表現として、均一な幾何形体の反復による図式的平面構成を採用している。プレストレスPCユニットで構成された屋根面による開放空間は、公共性とバリアフリーを意図したとも考えられるが、実態としては閉鎖系・開放系空間と機能性とのずれによる音・光環境など不適切な部分が見られる。コンセプトの純化を追求するあまり規範性の低下が表面化し、建築としての洗練度を失うという結果となっている。

「垂直の森」：鉄骨補強木造2階建・キューブ形の小住宅で、内部は構造柱のない上下一体化された空間と家具化された機能エレメントで、外壁面は等間隔の構造柱に均一壁面パネルと開口パネルとで構成されている。将来の解体移築も含めた多様な生活状況への対応として提示された「部品化された建築」という先進的プログラムは、一方で不安定な住空間という側面を実体化させ、プログラムとしての普遍性を達成できていない。

「中央警察署札幌駅前交番」：難解なコンテクストの場にガラスと耐候性鋼板のシンプルな面構成によって現代都市美を表現した作品で、景観的配慮から知的抑制された設計プログラムの先進性と繊細で洗練された建築単体としての造形が高い評価を受けた。反面、多くの市民と来訪者には交番自体の認知が困難な結果となり、場の重要性に対する規範性の弱さが欠点となっている。

審査討議の後、本年度の受賞作は、北海道建築賞に「釧路こども遊学館」(保科文紀/元アトリエブク、金箱温春/金箱構造設計事務所、石黒浩一郎/アトリエブク)、北海道建築奨励賞には該当なしを全委員一致で決定した。

なお、受賞作は完成まで7年間を要したため多くの設計者の連携によって実現した。4月5日、4月16日の両日、札幌市内で委員会を開催し北海道建築賞表彰規定の「主たる設計者」の明確化を図った。濃密な議論を通して「受賞対象者は、設計プロセス全体の実質的な設計統括責任者であり、原則1名である」との合意を得たうえで、今回の受賞作はその実態から前記3名を設計統括責任者と認定した。

全体的印象としては、文明としての先進的技術に偏る傾向が強い反面、日常へのまなざしが紡

ぎあげる文化としての建築という原点が失われつつあると感じた。形態と技術の操作にではなく、原点の現代的認識の中にこそ新しい鍵が隠されていることを再確認したい。

(文責 大萱 昭芳君)

(5) 審査講評

北海道建築賞 「釧路こども遊学館」

「地域に本来の公共建築をつくる」この思いが結実した建築である。

公募型コンペの実施から建設まで6年近くの時間を要した釧路こども遊学館は、基本設計・実施設計の過程で、地元市民らが組織した「釧路こども遊学館をつくり、育てる会」が、最終的な施設の運営を念頭において利用面だけでなく、展示面、運営面も含めた様々な提案を行った。それを設計者は、ワークショップ等、様々なコミュニケーション・ツールによって丹念に汲み取り設計のプロセスを進めたのである。

この建築が盛んに利用され、様々な企画や活動が行われている現在の様子を見ると、昨今の利用者不在での公共建築の建設や表面的な指定管理者制度の運用による第三者の公共施設の管理、さらには設計プロセスを無視した設計業務の発注といった問題に対して、設計者とユーザー、発注者の着実で真摯な対応があって初めて、すべての市民に活用される公共施設が誕生するのだということを教えてくれている。

このような建設プロセスは決して容易ではない、大変煩雑なプロセスである。実施設計というハードの取りまとめをしなければならぬ中で、同時にこのようなソフトの取りまとめとファシリテートをしていったことに対する設計者の新しい挑戦と問題意識は高く評価される。

設計者の挑戦する姿勢は、敷地やプログラムに対する建築としての対応にも及んでいる。敷地は、シビックコアとして魅力とにぎわいのある都市拠点形成する事業エリア内にあるが、そこがもともと鉄道駅であったこと、都市の中心部であったことといったコンテクストは跡形も無くなっている。新たな都市再生の拠点として、合同庁舎も隣接地に建設されているが、機能的に、遊学館とまったく連携するものはない。そのような現在の都市的状况の中で設計者は、「地域の建築」を成立させるために建築の形式性をしたたかに操作することで見事に独自性を表現している。

建築の内と外を隔てる境界は、ガラスのスクリーンと斜め柱、水平のトラス梁によってみごとに消し去られ、市民に開放された全天候型広場と円形の砂場といった外部的要素は、建築の内部に存在する。内と外の消失である。円形の砂場の上には、卵型のプラネタリウムが4層吹抜の中に浮遊し、さらにはそれと対峙するかのよう長円形のループスロープの白いボリュームが今度は2層吹抜を上下に重ね合わせた空間を貫いて伸びる。それぞれは、特徴を持った形態素であるが、それらを包み込む曲線のガラスの外皮によって全体としてのバランスがもたらされている。また、敷地割の特徴から生まれる建築周囲のオープンスペースに沿って変化する視線の角度や位置に応じて見え隠れする形態の重なりの変化が、表皮のガラススクリーンからは想像できない奥行と領域感を与えている。従来の建築が持つ形式性をあえて排除することで、敷地＝場所における建築の存在の意味を表現として定位させている。

子どものための空間、子どもの場＝子どもの領分にふさわしい空間のスケールとボリュームの設定という、子どものための機能を有する建築がもたらす形式性に対しても釧路こども遊学館は異を唱える。大きなスケールの空間のあいまいな連続の中に子どもたちの場をちりばめていることが、そこにある遊具や展示とも呼応して新しい身体性を創り出す。それは、固定化されたプログラムを拒絶することが子どもたちのアクティビティを最大限に引き出すことになるという、子ども＝人というこの建築に対する主人公にとって本質的な空間のあり方とは何かという設計者の問題意識の具現化なのである。

これにさらに寄与しているのは遊具や展示什器のデザインである。得てしてこの種の建築がテーマパーク的になりがちなのは、遊具や展示什器にもその原因があるが、ここでは統一され抑制されたデザインコントロールをすることで、結局子どもたちの活動を主軸とした空間構成が成立しているのである。

建築自体からも建築とそれを取り巻く周辺からも、その地域からも既存の様々な形式性から離脱することがこの建築の目論見であり、ラディカルな追求であった。しかし、それを支えているのは高度な技術である。表皮が一体性を持った透明ガラススクリーン、個々のボリュームが分節

され、自立した構成、そして大きな気積。こういった建築のプログラムをどのような建築技術を用いて解いていくかという点においても、意匠性を失わない。しかし、それでいて構造的技術に裏打ちされた構造設計、釧路という地域の気候を十分考慮してそれに応じた室内環境の設計は、モードに流されない地域の建築としての規範性すらも獲得している。

以上のようなこの建築に対する様々な挑戦の集積を北海道建築賞として高く評価するものである。

(文責：小篠 隆生君)

5.2 卒業設計優秀作品(日本建築学会北海道支部賞)

(1) 卒業設計優秀作品審査委員会(主査：渡邊 広明君 委員数6名 委員会開催数1回)

2005年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、審査方針の確認とともに各委員選定の候補作品について推薦を行い、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の分野別に候補作品各々について合同において再審査し、合議の上、各賞を選出した。また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評者の担当を決定した。

審査員：

主査：渡邊 広明君

委員：加藤 誠君 上遠野 克君 小西 仁彦君 斉藤 徹君 中山 眞琴君

(2) 受賞者

大学の部 (応募作品数13点)

- ・銀賞 青木 潤君：北海道大学工学部建築都市学科
作品名 風の縋る寂景
- ・銀賞 中井孝二君：北海道工業大学工学部建築学科
作品名 INSTALL/両親の為の家
- ・銅賞 池村菜々君：北海道大学工学部建築都市学科
作品名 Streamscape-グリッド都市の中で-

短大・高専・専門学校の部 (応募作品数6点)

- ・金賞 志田彩乃君：札幌市立高等専門学校インダストリアルデザイン専攻
作品名 シピリカ 木構造による藻岩山展望台と付属施設の設計
- ・銀賞 三田村暢彦君：札幌建築デザイン専門学校建築工学科
作品名 blob-morphic
- ・銅賞 宮腰大介君：札幌建築デザイン専門学校建築工学科
作品名 洞爺彫刻美術館

工業高校の部 (応募作品数7点)

- ・金賞 田伏 洸君：北海道札幌工業高等学校建築科
作品名 Tokashi Nitai-湖上の森-
- ・金賞 川瀬璃以子君：北海道札幌工業高等学校建築科
作品名 Place~子供達の「場」の獲得~
- ・銅賞 相澤佳那恵：北海道函館工業高等学校建築科
作品名 道の駅 YOU・遊・もり

(3) 審査講評

大学の部

銀賞・青木君

室蘭という地において鉄を題材に建築化している。私個人としては「金」を付けたのだが、

惜しくも、銀賞になってしまった。形態といい、機能といい、都市や建築そのものの連続的なあり様はすごく心地よい。建築が忘れてならない「ベーシック」と云うものを表現されていた。銀の「INSTALL」と比較してみると歴然でコンセプトは面白いが、住めない、又は住みたくないという基本的なものがあって、難しい話だが現代建築の両端を見る様であった。あえて言うならば、「風の縋る寂景」はタイトル通り少し寂しい感じがした。それはスケール感と平面にある気がしているのだが、私だけだろうか。

(文責：中山 眞琴君)

銀賞・中井君

この建築は両親のための家である。親子で住む為のプログラムのやりとりを行い、いかにニュートラルな形態を決定するかがこの作品の要であったという。

全体をほぼ地下空間に収め敷地両サイドのスリットにより光を内部に入れる。しかしそこは場所性を喪失した空間が広がる。一部地上に露出されたユニットは地下とは対照的に外部と存分に関係を持った内外一体の空間となっている。

住宅建築の新しい住み方をコンピューターのハードとソフトに見立て行っているが、概念としては理解できるがこの住宅が何故、この様な形態或いは形式をとったかが重要であり、結局のところいくら抽象化してもつくることでそれを決定せざるを得ない現実がある。また、個が全体(街)にどの様な影響や刺激を与えていくかが建築の行為の大切なところである。それが両立できた住宅は住むことに最も適したものになりえると考える。この作品が自己完結から抜け出しそこまでの広がりを持ったならばもう一つ上の評価もありえたと思う。

(文責：小西 彦仁君)

銅賞・池村君

格子状街路(グリッド)を基本構造として都市形成されてきた札幌における、都心からやや離れた円山を舞台とする街区再生プロジェクト。その手法は、グリッド構造に縛られない川の流りに着目し、川に沿いながら建築の流れ、人の流れをテーマとする柔らかな新しい空間構造の導入である。都市の多様性を豊かにすることにおいて、そのねらいは成功している。ただ、設定された街区内を縦断する川に行く先や周囲との関わりは？川に向かう内向き街区が形成された先には何があるのだろうか。川の流れを空間構造、建築化するものとして特徴づけているルーバー状の構造体は成功していない。既成都市への問題提起、環境との関わり、都市と環境と建築の新たな有り様等、もう少し踏み込んで欲しかった。

(文責：渡邊 広明君)

短大・高専・専門学校の部

金賞・志田君

札幌のシンボルである藻岩山を舞台とする、山頂展望台、第2展望台、ロープウェイ中頂駅舎等施設群の設計である。木構造によるフォルムデザインといった一貫した施設群設計の姿勢を貫き、山頂の山肌の持ち上げや堀込みによる機能の地中配置といった巧みで説得力ある設計手法を設定し、まとまりのある設計提案として表現しきったことが高く評価された。

ただし、建築がそれ自体として兼ね備えるべき空間性やその魅力、提起といった視点においては物足りなさが残った。同一部門における銀賞、銅賞各賞作品がその点において魅力的であったことをここに記しておく。さらなる研鑽を期待したい。

(文責：渡邊 広明君)

銀賞・三田村君

一枚のスラブというより、パーツとしてのスラブがそれぞれに関係し合い「連続的でありながら、差異化された空間を継ぎ目のない操作によって生成する。」発想は、現代的建築アプローチと言える。何か美しい、見た事もない世界観へ我々を魅きつける。しかし、疑問も多少感じた。建築はここまで大袈裟なアプローチは必要ないし、操作する作為はもっと隠れていいのではないのか。こら辺に現代の建築の危険な末路を孕んでいる。

(文責：中山 眞琴君)

銅賞・宮腰君

建築と彫刻の違いは何か？FRANK・O・GEHR Yいわく窓が有るか無いかの違いであるという。それは明快で深い。まさにこの建物は現在の58基の彫刻にプラスされる59基目の美しさを持っている。しかし、そこには建築と彫刻の違いがある、メビウスの輪を二重に重ねた空間はいつしか床が壁となり天井・・・

また床になる二重の間にはガラスが嵌められそれ自体もメビウスとなる。確かに天地の視線の移動が発生し、それは湖、大地、天空へと変化する。だが断面図をみると何故か水平の床がつくられている。この建築はネジレを体験させなければ魅力が薄れる身体の平衡感覚が一瞬奪われるそれがこの空間の醍醐味である。美しい建築にはつい可能性を感じてしまう秀作である。

(文責：小西 彦仁君)

工業高校の部

金賞・田伏君

地域の交流を育む空間づくりがテーマである。図書館、子ども図書館、講堂の3つのマスが独立しながら連結することで、それぞれの機能が干渉されず静かな空間を作り出している。建築を大きな樹に見立ててバランスよく配置しており、そこに自然環境の調和に配慮する姿勢が感じ取れる。トップライトから自然光をダイナミックに取り入れて内部空間を演出する力量も評価したい。

(文責：齊藤 徹君)

金賞・川瀬君

幾何学的な形態を有機的につなぎ合わせた魅力的な提案です。かたちの集合が全体像としてひとつの個性的なシルエットを作り出すことに成功しており、強いシンボル性も見られます。外部の隙間や空地に対して、建物内部の活動を積極的に連動させていくことができれば、より豊かな提案になったと思います。

(文責：加藤 誠君)

銅賞・相澤君

森町から望む「駒ヶ岳」の稜線をモチーフにし、「オニウシ公園」の桜をデザインのアクセントに取り入れた道の駅の作品です。打放しコンクリートの外壁、ガラスのトップライト、桜のデザインの丸窓とサッシュ等をすてきにデザインしています。平面図と室内パースからも楽しい空間構成がよみとれます。「オニウシ公園」側に大きく開かれた眺望、吹抜、中央部のシースルーのエレベーター、2階のラウンジ・食堂と、人の流れも上手に計画されています。2つの三角形の間にある2、3階の屋外展望テラスがもう少し表現されていたら、より魅力的な空間になったと思います。

(文責：上遠野 克君)

5.3 優秀学生・生徒(日本建築学会北海道支部賞)

2005年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

七田 悠介君・加藤 吉雄君：北海道大学工学部建築都市学科
小野 恵君・本間 玲子君：北海学園大学工学部建築学科
宮崎 健介君・扇 千佳君：北海道工業大学工学部建築学科
紺野 陽子君・齋藤和香菜君：室蘭工業大学工学部建設システム工学科
江本 真紀君・松岡 美都君：北海道東海大学芸術工学部建築学科
飯塚 義訓君・大泉 雅幸君：道都大学美術学部建築学科
稲垣可南子君・西本 寛菜君：釧路工業高等専門学校建築学科
森澤 香織君・目黒久美子君：札幌国際大学短期大学部総合生活学科

志田 彩乃君：札幌市立高等専門学校専攻科インダストリアルデザイン専攻
長谷川由季君：札幌市立高等専門学校インダストリアルデザイン学科
松井 瞳君：北海道職業能力開発大学校建築技術システム技術科
島田 健君：北海道職業能力開発大学校建築科
後藤 晃弥君：北海道立正学園旭川実業高等学校建築科
田伏 洸君：北海道札幌工業高等学校建築科
川辺 秀行君：北海道札幌工業高等学校定時制建築科
保木 梓君：北海道小樽工業高等学校建築科建築デザインコース
竹花 貞士君：北海道小樽工業高等学校定時制建築科
藤田 稔也君：北海道函館工業高等学校建築科
鈴木 守昭君：北海道函館工業高等学校定時制建築科
田中 良信君：北海道旭川工業高等学校建築科
外山 翔平君：北海道旭川工業高等学校定時制建築科
大槻 雄太君：北海道苫小牧工業高等学校建築科
中落 絵理君：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科
榎本 浩志君：北海道帯広工業高等学校建築科
平尾美喜子君：北海道釧路工業高等学校建築科
角田 進弥君：北海道名寄光凌高等学校建築システム科
間島 精君：北海道美唄工業高等学校建築科
森田 莊一郎君：北海道室蘭工業高等学校建築科
伊藤 翔一君：北海道留萌千望高等学校建築科
土屋 龍彦君：北海道北見工業高等学校建築科

5.4 日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。2005年度は、最も長期に亘り支部会員を継続された以下15社の法人・賛助会員表彰した。

株式会社大林組 札幌支店
株式会社岡田設計
鹿島 札幌支店
株式会社熊谷組 北海道支店
清水建設株式会社 北海道支店
株式会社竹中工務店 北海道支店
戸田建設株式会社 札幌支店
日鐵セメント株式会社
株式会社フジタ 札幌支店
株式会社ドーコン
株式会社北海道日建設計
株式会社三菱地所設計 札幌支店
吉田建築設計事務所
北海道コンクリート工業株式会社
北海道電力株式会社

6. 北海道建築作品発表会の実施

(1) 北海道建築作品発表会委員会（主査：小篠 隆生君 委員数3名 実行委員7名 委員会開催数4回（実行委員会1回を含む））

昨年度、大変好評であった12月初旬発表会開催というスケジュールを今年も同様の形で実施

することとした。また、応募案内を支部 HP や各種建築系雑誌による告知のみにして行うことも今年 2 年目になり問題もなかったことから応募者の間に定着きたと考えられる。さらに、発表形式についても作品紹介、質問募集、発表という昨年の形式を踏襲することを委員会で決定した。

実行委員会は、7 名の実行委員を加え 10 名で組織した。発表方式の変更の確認、作品の受付、プログラム編成、プレフォーラムという流れに沿って 3 回開催した。すべての発表は PowerPoint 等による PC を使ったものとし、結果的に 35 作品という例年並みの作品数が集まった。

12 月 2 日に第 25 回建築作品発表会を北海道立近代美術館講堂で開催、作品集 VOL.25 を発刊した。発表会での議論の記録、発表作品の分析等を含めた活動記録と評論を北海道建築士事務所協会誌「ひろば」12 月号に小西彦仁君が執筆した。

(2) 北海道建築作品発表会の開催

第 25 回北海道建築作品発表会

期日 2005 年 12 月 2 日

会場 北海道立近代美術館講堂

発表作品数 35 題

大変好評であった発表作品に対する発表者と来場者との議論の活性化を目指した事前質問募集、全発表者に対する均等な発表時間の割当という昨年より実施したプログラムを今年も踏襲して発表会を行った。今回集った 35 作品の傾向で特筆されるのは、従来より発表会の常連である方々に加えて、はじめて発表する若手の発表者が多くなってきていることである。これは、本発表会が北海道における建築作品の発表の場として広く定着して来ていることを示すものであると理解できる。25 回という長い歴史を持つ発表会を今後も持続しつつ、絶えず時代に即応したニーズを汲み取りながら、学会における建築作品の発表の場を築いていきたい。

参加者約 450 名。「北海道建築作品発表会作品集 2005 VOL.25」を発刊。

7. 特別委員会

7.1 事業主連絡会（事業系 5 委員会の主査、事業系担当常議員、連絡会開催数 1 回）

2005 年 11 月に建築賞、作品選集、作品発表会、設計競技の 4 委員会主査（卒業設計審査委員会は欠席）と担当常議員、幹事で連絡会を開催した。各事業の進捗状況の報告を受け、その後、課題、懸案事項等の議論に入った。

建築賞委員会から、建築賞受賞者講演を総会より切り離し、別の機会に設けるべきとの提案と、建築賞の審査スケジュールの見直しの提案がなされ、その後、常議員会、当該事業系委員会（建築賞委員会、作品発表会委員会）での数度にわたる審議を経て、現在は、実現の見通しがほぼたっている。

卒業設計審査委員会からは、入選作品の HP への展示の定着化とそれに伴う、方法、人員の確保等の提案があり、常議員会にての審議事項とした。HP 管理の人員確保などの課題は現在検討中である。

7.2 総務委員会（委員長：羽山 広文君 委員数 4 名 委員会開催数 0 回（電子メール会議を 1 回開催））

北海道支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理について主に検討を行い、四半期に一度の頻度で常議員会にて報告を行った。また、次年度の予算案策定について検討した。日本建築家協会北海道支部との合同委員会において、合同事務所の利用に関する事項を協議した。また、建築関連の情報交換を行うとともに、合同企画についての検討も行いジョイントセミナー（2 回：城攻教授 5/24、越澤明教授 1/30）を実施した。

7.3 中長期戦略検討 WG（主査：城 攻君 委員数 5 名 委員会開催数 3 回）

支部役員は 2 年交代で改選されることから、支部運営を中長期的に考える視点に欠けていたために、数名の WG 委員の下に 1 年間の審議を行った。異なる職種の委員構成とした WG では、会勢動向への対処、支部組織および支部活動の見直し、支部運営費の健全化等について将来展望を

考慮しながら検討した。また、支部長より学術委員会には、現行専門委員会の専門区分の見直しと活動評価、支部研究発表会における論文査読の是非、地方組織の強化等についての検討を、また、事業系連絡委員会には、表彰選考基準と表彰者講演機会の見直し等についての検討を依頼し、それぞれから答申を得た。

7.4 ホームページ管理委員会（主査：高橋 章弘君 委員数2名）

本委員会は、2001年4月に開設された北海道支部のホームページの管理することを目的としている。本委員会は2名の委員で構成され、委員会開催は特に設定していない。2005年度における当ホームページへのアクセス数は約8,000件あり、北海道支部の広報活動に貢献した。当ホームページでは、各委員会活動の内容紹介、講演会の開催案内、北海道支部研究発表会や北海道建築作品発表会の募集案内等について、年間12件の掲載を行った。さらに支部研究発表会や建築作品発表会、北海道建築賞等の申し込み関係書類について、ホームページからのダウンロード化を行った。

8. 講習会・シンポジウム等の開催

8.1 講習会

(1) 本部主催講習会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
2005年度支部共通事業「鉄筋コンクリート造建築物ひび割れ制御指針・施工指針」講習会	2006.2.15	ホテルノースシティ	名和豊春君 他3名	51名

(2) 支部委員会主催講習会（セミナー）

なし

8.2 講演会

(1) 本部主催講演会

なし

(2) 支部主催講演会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
第25回北海道建築作品発表会	2005.12.2	北海道立近代美術館 大講堂	作品数35点	約450名
「北国らしい住宅のアイデア」	2005.12.12	北海道立札幌工業高等学校	奈良謙伸君	70名
「地震に強いまちづくり・家作り」	2005.12.14	北海道立小樽工業高等学校	戸松 誠君	39名
「建物の地震被害と構造設計」	2006.1.26	北海道立室蘭工業高等学校	溝口光男君	73名
「超高層建物について」	2006.2.10	北海道立美唄工業高等学校	有江暢亮君	36名

(3) 支部委員会主催講演会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
「北方圏域における豊かなパブリックスペースの創造」 (北方系住宅専門委員会)	2005.6.24 ～25	北海道大学遠友学舎 札幌エルムの杜・ 児童会館	野口孝博君 他7名	1日目 50名 2日目 30名
津波防災まちづくりシンポジウム inおくしり (都市防災専門委員会)	2005.10.14 ～15	奥尻町海洋センター 奥尻町役場青苗支所	高井伸雄君 他6名	1日目 56名 2日目 37名
明治期における旧陸軍の建築技術意匠と民間建築への普及 第7師団施設を中心としてー (旧軍施設委員会)	2006.2.5	旭川市花月会館	鈴木邦輝君 他5名	41名

8.3 展示会

開催日	名 称	会 場	参加者数
2005.5.18 ～5.20 5.27～29 6.3～6.5 11.9～11	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学 北海道東海大学 北海道大学 釧路工業高等専門学校	210名 540名 54名 200名
2005.6.27 ～12.12	道内工高卒業設計優秀作品巡回展	道内工高13校	

8.4 見学会

開催日	見 学 場 所	解説者	参加者数	主 催
2005.10.1	「地球社会の生き方がしー田園生活にふれて」	柳田良造君 他1名	17名	北方系住宅専門委員会
2005.10.15	「小樽の歴史的建造物の今と未来 今を見る・未来を語る」	植田 暁君 他5名	45名	歴史意匠専門委員会
2005.10.19	「ニッセイ札幌プロジェクト」及び「北8西3東地区第一種市街地再開発事業」現場見学会	委員会委員 他1名	30名	構造専門委員会

9. 本部関連事業・その他

9.1 2005年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 共通事業設計競技審査委員会(主査:藤島 喬君 委員数5名 委員会開催数1回)

支部審査員:

主 査: 藤島 喬君

委 員: 川人 洋志君 小西 彦仁君 柳田 良造君 山之内 裕一君

委員会は7月12日、北海道支部事務所会議室に於いて、委員全員出席の元、午後5時より開催した。本年度の設計課題は「風景の構想?建築をとおしての場所の発見」であり、例年より多い、7作品の応募があった。ほとんどの図面がCAD化され、高度な技術には目を見張るものがある。課題に従い、北海道という場所性を生かした作品あるいは、自らが住む都市風景を扱う作品があ

り、それぞれ力作であった。審査は、全作品を1時間かけて審査し、後半は活発な意見の交換後、各々が厳正な審査の上投票した。その結果、釧路の水面貯水場の潜在力を巧みに利用し、多様なアクティビティ空間を創出した松田案と滝川市の農村地を対象に、風土を解釈しながら生活と風景を定義し、改めて器としての建築を再考する平下案の2点を支部入選と決定した。その後全国審査が行われ、295作品の中から見事、松田案が最優秀賞受賞という快挙を成し遂げた事を付記しておく。尚、全国審査には米田浩志君が参加した。

(文責：藤島 喬君)

(4) 審査講評

最優秀賞：松田 拓郎君(北海道大学)

もはや“負のシンボル”となり日常に埋没しつつある、かつての“発展、成長のシンボル-釧路水面貯水場”を構想の題材とした提案である。現況を把握したうえでのプログラムの構築、その空間化の手法、そして最終的に出現するであろう“風景”が、密度高く、精度を備えながら具体的に表現されている。提案の基点、その方向性に魅力と発見の瞬発力を保ちながらも、この設計競技が目的とする“風景の構想”にまで昇華させていく過程において、提案が、備えるべき具体性や実現性、あるいは決定性に疑問を抱かざるをえなかった最終候補数案に比して着実に強い提案に仕上げた作者の建築的思考と力量が表現されているこの案が、相対的に評価された。

(文責：川人 洋志君)

支部入選：平下 貴博君(北海道大学)

滝川市江部乙地区の波状丘陵地に広がる田園風景を継承・育成する提案である。江部乙は明治開拓期に屯田兵村として開かれた土地だが、現在美しい田園風景が広がるなか、離農などの問題も生じている。提案は地域の農村空間を保全・継承していく新たなプログラムを提出するとともに、田園景観を再構築する空間装置を提起している。集村的な住まい方のプログラムには疑問を感じる部分もあるが、丘陵地の農村の中に新たな風景を形成する建築には魅力がある。

(文責：柳田 良造君)

9.2 作品選集支部選考の実施

(1) 作品選集支部選考部会活動報告(主査：佐藤 孝君 委員数9名 委員会開催数2回)

審査員：主査：佐藤 孝君

委員：及川豊秀君 小田信一君 亀井昭君 小西 彦仁君 田川正毅君 東宮英明君
保科文紀君 山之内裕一君

応募題数は、12作品と少ないながらも、建築の質は高い印象をもった。今年の北海道推薦数は6題であったが、審査員の多くが7作品まで高い評価をしていただけに、ボーダーラインの2作品において白熱した議論となった。共に建築の質の高さを認めた上での相違は、「コンセプトと空間の明快さ」と「計画的技術的な建築レベルの高さ」にあった。Aランクは4作品が拮抗し合議により2作品に絞られた。本部選考では、北海道推薦の6作品が全て選ばれ「掲載」となった。

- ・ 六花亭真駒内ホール
- ・ モエレ沼公園ガラスのピラミッド
- ・ 風の輪
- ・ IS
- ・ 積丹町立余別小学校
- ・ 札幌市立資生館小学校

(2) 作品選集支部選考の結果

支部応募作品数 7点

支部選考通過作品数 4点(本部採用4点)

作品選集掲載作品

- ・ 六花亭真駒内ホール
古市 徹雄君：古市 徹雄都市建築研究所

- ・ モエレ沼公園ガラスのピラミッド
川村 純一君：アーキテクトファイブ
堀越 英嗣君：アーキテクトファイブ
松岡拓公雄君：アーキテクトファイブ
- ・ 風の輪
五十嵐 淳君：五十嵐淳建築設計
- ・ IS
渡辺 真理君：設計組織ADH
木下 庸子君：設計組織ADH
- ・ 積丹町立余別小学校
小林 英嗣君：北海道大学大学院工学研究科
小篠 隆生君：北海道大学大学院工学研究科
井端 明男君：アトリエアク
- ・ 札幌市立資生館小学校・保育園・子育て支援センター
後藤 達也君：アトリエブंक
金箱 温春君：金箱構造設計事務所
加藤 誠君：アトリエブंक

9.3 建築文化週間

(1) 見学会

テーマ：地球社会の生き方がし 田園の生活にふれて（小規模参加型）

開催時間：2005年10月1日（土）12：00～17：30

参加者：17人

場 所：当別町田園住宅

講 師：柳田 良造（株式会社プラハアソシエイツ代表取締役）

辻野 浩（当別町農村都市交流研究会代表）

(2) 見学会及びシンポジウム

テーマ：「小樽の歴史的建造物の今と未来ー今を見る・未来を語るー」

参加者数：45名

開催時間：2005年10月15日（土）9:30? 15:00

概要：建物見学とシンポジウム

<見学建物>

旧日本郵船（株）小樽支店（国指定重要文化財）

海陽亭（市指定歴史的建造物）

旧板谷邸（海宝楼、市指定歴史的建造物）

色内のまちなみ・旧三井銀行小樽支店（市登録歴史的建造物）

旧岡崎邸能舞台（小樽市能舞台、市指定歴史的建造物）

<シンポジウム・パネリスト>

植田 暁（建築家、風の記憶工場、NPO景観ネットワーク）

古林 史玄瑠（建築家、アトリエ・バラウ`イン）

長内 昇（小樽市建設部まちづくり推進室）

忠岡 隆司（函館市教育委員会文化財課）

<コーディネータ?>

駒木 定正（北海道職業能力開発大学校助教授）

<見学担当>

中渡 憲彦 (同上)

10 . 建築関連団体との活動

10.1 AIJ-JIA 合同委員会 (委員数(AIJ) : 8 名、開催数 : 6 回)

本委員会は、合同事務所の運営および合同の企画等に関わる事項について協議した。協議内容は、合同事務所の環境改善、AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画、北海道建築設計会議の活動、関連団体を含んだ CPD の認定についてである。AIJ-JIA ジョイントセミナーは、第 9 回、2005 年 5 月 24 日、講師：城攻君(北海道大学)、参加者 25 名、第 10 回、2006 年 1 月 30 日、講師：越澤明君(北海道大学)、参加者 26 名を実施した。

10.2 北海道建築設計会議 (幹事会 9 回)

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道道備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本積算協会北海道支部および建築設備技術者協会の 9 団体により構成されている。本会からは、南出孝一と澤田幹夫の 2 名を参加させた。CPD (継続能力開発) の共同化、福祉のまちづくり、建築士制度等についての情報収集 (海外情報も含め) や意見交換をおこなった。

11 . 共催・後援 (2005 年度内に申請のあったもの)

期 日	名 称	会 場	主 催
後援 2005.5.7 ~7.8	「土木・建築書展 2005」	丸善南 1 条店	丸善株式会社札幌店
2005.6.29	「スマトラ地震及び津波被害調査報告会」	札幌ガーデンパレス	(社) コンクリート工学協会北海道支部
2005.9.9 (応募提出締切日)	第 30 回「北の住まい」住宅設計コンペ		(社) 北海道建築設計事務所協会
2005.9.28	「第 2 回限界耐力計算研修会及び石山先生受賞記念講演会」	かでの 2.7	(社) 北海道建築技術協会
2005.11.16	第 16 回旭川建築作品発表会	旭川市科学館「サイバル」	旭川まちなみデザイン推進委員会
2006.2.11	H o B E A フォーラム 06 「マンション長持ち大作戦 改修計画からコミュニティーの形成まで」	札幌アспенホテル	(社) 北海道建築技術協会
2006.1.27	「フロントランナーシンポジウムー建築・都市の研究・教育の実践」	札幌男女共同参画センターエルプラザ	北海道大学大学院工学研究科
2006.3. 8 ~ 17	建築士のための指定講習	道民活動センター 旭川市民会館 サン・リフレ函館 苫小牧市民会館 ソネビルイベントホール 室蘭市市民会館 北見芸術文化ホール	(社) 北海道建築士会
2006.4.21 ~7.10	「北海道 (2006) 建築セミナー」	道民活動センター かでの 2.7	新建築家技術者集団 北海道支部

2005 年度財産目録及び収支決算報告

2005 年度 財産目録

日本建築学会北海道支部

資産の部				資金および負債の部					
摘要	前年度末	本年度末	比較	摘要	前年度末	本年度末	比較		
基本財産				資本	支部基金	3,010,000	3,510,000	500,000	
					学術振興基金	3,660,000	4,110,000	450,000	
					災害調査研究基金	1,730,000	2,200,000	470,000	
					退職金積立金	240,000	300,000	60,000	
	計	0	0						
運用財産	現金	160,879	309,520	148,641	金				
	預金	2,331,991	1,288,738	-1,043,253					
	普通預金	2,331,991	1,288,738	-1,043,253					
	未収金	0	0	0					
	仮払金	497,616	492,138	-5,478					
	計	2,990,486	2,090,396	-900,090		計	8,640,000	10,120,000	1,480,000
引当財産	基金引当預金	3,010,000	3,510,000	500,000	負債	未払金	0	0	0
	定期預金	3,010,000	3,510,000	500,000		仮受金	485,289	483,731	-1,558
	学術振興基金引当預金	3,660,000	4,110,000	450,000					
	定期預金	3,660,000	4,110,000	450,000					
	災害調査基金引当預金	1,730,000	2,200,000	470,000					
	定期預金	1,730,000	2,200,000	470,000		計	485,289	483,731	-1,558
	職員退職引当預金	240,000	300,000	60,000	繰越金	前期繰越金	0	0	0
	定期預金	240,000	300,000	60,000		当期過不足金	2,505,197	1,606,665	-898,532
	計	8,640,000	10,120,000	1,480,000		計	2,505,197	1,606,665	-898,532
	合計	11,630,486	12,210,396	579,910	合計	11,630,486	12,210,396	579,910	

資産の部、本年度末の 現金、預金、仮払金 を合計した運用財産は、2,090,396 円となっています。

引当財産は、前年度末と比較し、1,480,000 円増加し、10,120,000 円となっています。

資産の合計は、12,210,396 円となり、前年度末と比較し、579,910 円増加しています。

資金は、右側の支部基金、学術振興基金、災害調査研究基金、退職金積立金の 4 項目からなっています。2004 年度大会が実施された際の余剰金の一部を 2005 年度に基金として積み立てました。その総額は、1,480,000 円となり、前年度末と比較し増加しています。

2005 年度末の繰越金は、右側下段の当期過不足金で示されており、1,606,665 円となっています。

2005 年度 収支決算書

日本建築学会北海道支部

収入の部				支出の部					
摘要	予算額	決算額	増減	摘要	予算額	決算額	増減		
交付金	支部費	1,514,000	1,572,000	58,000	事業費	調査研究事業費	860,000	819,157	-40,843
	経営助成費	2,550,000	2,490,000	-60,000		表彰関係費	885,000	762,589	-122,411
	事業交付金	1,030,000	1,020,000	-10,000		設計競技費	40,000	4,152	-35,848
	支部事務所費	1,589,000	1,589,000	0		卒業設計展示費	40,000	25,757	-14,243
	支部事務費	300,000	300,000	0		教育文化事業費	330,000	298,210	-31,790
					ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等経費	2,950,000	2,847,855	-102,145	
					委託調査研究費	0	490,875	490,875	
計	6,983,000	6,971,000	-12,000	計	5,105,000	5,248,595	143,595		
副次収入	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等収入	2,510,000	2,531,939	21,939	特別事業費	特別企画事業費	290,000	90,000	-200,000
	調査研究受託収入	0	577,500	577,500		計	290,000	90,000	-200,000
	雑収入	1,600,000	1,559,235	-40,765	会議費	総会費	175,000	249,250	74,250
	収入利息	5,000	7,036	2,036		役員会費	60,000	38,000	-22,000
	計	4,115,000	4,675,710	560,710		運営費	10,000	0	-10,000
				計	245,000	287,250	42,250		
前期繰越金	2,505,197	2,505,197	0	事務費	人件費	2,040,000	2,345,709	305,709	
基金取崩金	290,000	90,000	-200,000		通信費	310,000	250,589	-59,411	
					消耗品費	60,000	52,357	-7,643	
					印刷費	50,000	15,225	-34,775	
					雑費	600,000	634,370	34,370	
				事務所費	2,270,000	2,201,147	-68,853		
				計	5,330,000	5,499,397	169,397		
				基金積立金	1,510,000	1,510,000	0		
				予備金	1,413,197	0	-1,413,197		
小計	13,893,197	14,241,907	348,710	小計	13,893,197	12,635,242	-1,257,955		
資産収入				資産支出					
合計	13,893,197	14,241,907	348,710	合計	13,893,197	12,635,242	-1,257,955		
収支差額						1,606,665			

監査報告

2005 年度における社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2006 年 5 月 9 日

支部監事 _____

支部監事 _____

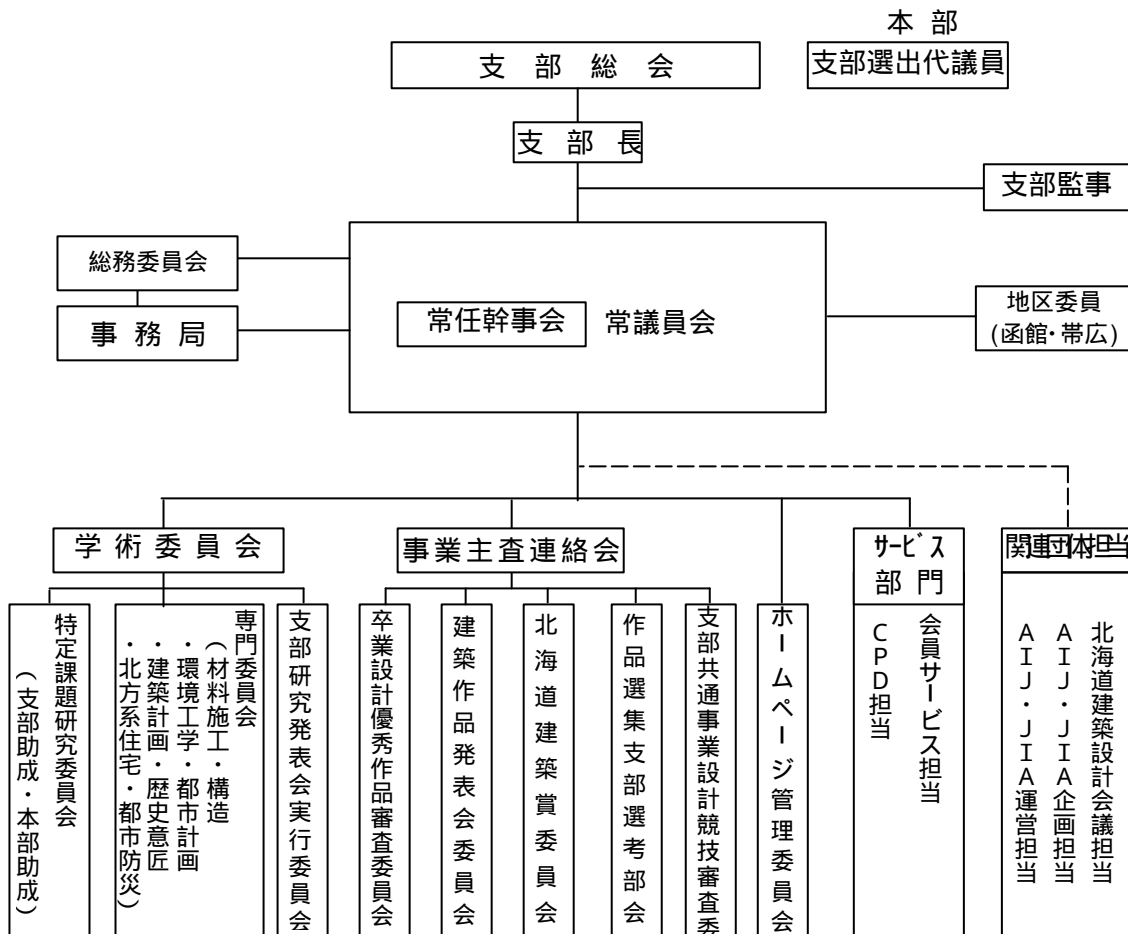
2006 年度事業計画方針案

1. 活動方針

近年、本学会支部の個人会員および法人会員の減少が進み、支部活動の経済的基盤を揺るがすに至っている。また、産業界の劇的な景気回復は見込まれないことから、今後の会員数の自然増大は期待できない。しかし、昨年末以来の耐震強度偽装事件を初めとして、建築設計や建築生産における社会不安を増大させたことは、逆に社会における建築界の健全な発展を担う学術団体としての本学会の役割が、極めて重要であることも認識された。本学会では、司法支援会議・まちづくり支援会議に続き、本年度から住まいづくり支援会議を立ち上げた。支部においてもこの支援会議を介して、建築の実務に対する直接的な協力が期待されているものと理解される。

当支部では、この2年間に中長期的な視点で支部運営について検討してきたが、更に議論を深めると共に、得られた成果を踏まえて支部活動を展開する必要がある。すなわち会員対応としては、特に他支部と比較して準会員（学部生）が著しく少ないことから、学部学生向けの建築教育支援を各大学等の教育機関の協力を得ながら押し進める必要がある。また、実務者会員へのサービスが不足していることから、本部が取り組む「能力開発支援制度」を支部レベルでも積極的に利用あるいは支援する。さらに、関係の深い学術団体との共同研究委員会の運営による効率的な研究展開や、北海道建築設計会議等の周辺諸団体との連携強化および当支部HPの充実による効果的な情報提供・情報交換を行う。なお、本年は日本建築学会創立120周年に相当するため、本部企画記念事業と連携して、当支部でも記念行事を開催する。

2. 2006 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長(2006.6.1~2008.5.31)

絵内 正道君 北海道大学大学院工学研究科教授

新任常議員(2006.6.1~2008.5.31)

伊藤 信泰君 大成建設札幌支店建築部工事長
桂 修君 北海道立北方建築総合研究所生産技術部
技術材料開発科科长
齋藤 文彦君 ドーコン建築都市部次長
鈴木 憲三君 北海道工業大学教授
深澤 幸子君 S . A . アーキテクト深澤建築研究所代表
星 卓志君 札幌市市民まちづくり局都市まちづくり推進室
事業調整課課長
溝口 光男君 室蘭工業大学助教授
(印 常任幹事)

支部長及び新任常議員は、支部役員選挙開票(2006年4月12日)により決定した。
支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(印 委員長)

菊地 優君 小篠 隆生君 久保田克己君 羽山 広文君 藤原 智史君

留任常議員(2005.6.1~2007.5.31)

小篠 隆生君 北海道大学助手
久保田克己君 北海道日建設計企画開発室室長
澤田 幹夫君 清水建設北海道支店旭川営業所所長
高崎 格君 札幌工業高校講師
田中 淳一君 北海道建設部都市計画課主査
玉木 勝美君 伊藤組土建建築部部长
藤原 智史君 北海道電力総合研究所次長
(印 常任幹事)

新任代議員 (2006.4.1 ~ 2008.3.31)

武田 寛君 北海道工業大学教授
中岡 正憲君 北海道建設部住宅局長
藤島 喬君 T A U 設計工房代表取締役
(2006年3月の本部選挙の結果、上記3名が選出された)

留任代議員 (2005.4.1~2007.3.31)

石山 祐二君 北海道大学名誉教授
那須 豊治君 岩田建設技術開発室室長
奈良 謙伸君 奈良建築環境設計室所長

新任支部監事 (2006.6.1~2008.5.31)

横山 隆君 清水建設北海道支店副支店長
(2006年4月の支部常議員会で選出された)

留任支部監事 (2005.6.1~2007.5.31)

野田 恒君 伊藤組土建技術部長

地区委員 (2006.6.1 ~ 2007.5.31)

帯広地区委員 小野寺 一彦君 設計工房アーバンハウス主宰
函館地区委員 山本 真也君 函館市企画部次長（兼函館市新幹線誘致推進室長）

3. 支部運営の諸会合の開催

総会

期日 2006年5月19日(金)

会場 北海道第二水産ビル

常議員会（複数回）

常任幹事会（複数回）

選挙管理委員会（支部役員選挙時に開催する）

4. 学術系委員会

4.1 学術委員会（主査：野口 孝博君〔交替予定〕 委員数 16名、委員会開催予定数4回）

当支部学術委員会主査は本部学術推進委員会の地域委員として参画して、その情報を支部の各専門委員会に向けて伝達する。当学術委員会は、各専門委員会及び特定課題研究委員会から調査研究の企画・計画及び活動の報告を受ける。また支部研究発表実行委員会の企画の審議と承認及び次年度の特定課題研究、支部助成研究及び建築文化週間企画の募集を行い、説明を受けて選定を行う。並びに支部長諮問事項についての検討を行う。その他各専門委員会の活動の横断的な連絡などの役割も担う。

第1回目；本部学術推進委員会報告（以下本部報告）、各専門委員会及び特定課題研究委員会活動計画、支部研究発表実行委員会の予定、建築文化週間の実施計画

第2回目；本部報告、各専門委員会活動報告、支部研究発表会次年度開催校の決定及び募集要項その他の検討事項、大賞候補募集

第3回目；本部報告、各専門委員会活動報告、支部研究発表会募集要項の決定、次年度の建築文化週間及び特定課題研究の募集、

第4回目；本部報告、次年度の事業計画、予算原案検討、次年度の特定課題研究及び建築文化週間の選考、支部研究発表会特別企画の決定、特定課題研究及び建築文化週間の結果報告

4.2 専門委員会

材料施工専門委員会（主査：濱 幸雄君 委員数 22名、委員会開催予定数6回）

建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最近の施工現場や特色のある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会活動を行う。具体的な活動予定は以下の通りである。

- 1) 本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- 2) 各種JASSにおける寒冷地対応工事仕様に関する調査研究および意見交換
- 3) 見学会の開催
- 4) 道内巡回講演会

構造専門委員会（主査：桜井 修次君 委員数19名+打*ザ*パ* -1名 委員会開催予定数4回）

これまでに引き続き、委員会を通して道内における構造関係の研究者・技術者との情報交換を行うと共に、各種行事を企画して地域の会員・市民への啓蒙活動を行う。主な活動予定は次のとおりである。

- 1) 委員会の開催：例年どおり4回行う（6月，9月，12月，3月）
- 2) セミナー・講演会等：日本建築構造技術者協会（JSCA）北海道支部と協力して講演会を行う。
- 3) 施工現場見学会：道内で現在施工中の建築構造物の見学会を行う。
- 4) 工業高校巡回講演会：和田俊良君（職能開発大）が「阪神大震災から見た小樽 - 鉄筋コンクリート構造におけるせん断亀裂性状の重要性 -」（予定）の題目で行う。
- 5) 特定研究課題：「地震等による建築災害調査方法の研究」を都市防災専門委員会と協力して実施する（主査予定者 北大・後藤康明君）。
- 6) 支部研究発表会特別企画：「社会に信頼される耐震化技術の構築」を都市防災専門委員会と協力して実施する。

環境工学専門委員会（主査：石田 秀樹君 委員数 29 名 委員会開催予定数 5 回）

環境工学本委員会や支部学術委員会等との連絡や、支部研究発表会をはじめとする通常の活動に加えて、以下の活動を予定している。

特定課題研究委員会「中高層マンションの外断熱改修研究委員会」への協力を継続する。

北海道建築技術協会の「断熱建物の夏対応研究WG」への研究協力を継続する。

特色ある支部活動企画として、新規に採用された「積雪寒冷気候を生かした低コスト貯蔵技術による農業生産環境改善への貢献」の活動として、見学会や意見交換会を実施する。

これらの活動を基に各種研究助成への応募や、市民・技術者を対象としたシンポジウムや見学会等を行うことを予定している。

建築計画専門委員会（主査：門谷 眞一郎君 委員数 15 名、委員会開催予定数 5 回）

前年度に引き続き「特色ある住民参加型の建築計画事例の発掘」をテーマに委員会活動を展開する。一方でCMS（Content Management System）XOOPS を試験的に運用する事業に取り組み、蒐集事例の紹介、事例関連事業へのリンク、研究情報（概要レベル）のデータベースの随時的構築とダウンロードサービスを展開する。なお、ダウンロードに関しては、著作権との関係もあり、利用登録者に対してのみ限定して行えるよう配慮する方針。

都市計画専門委員会（主査：瀬戸口 剛君 委員数 14 名、委員会開催予定数 5 回）

都市計画委員会は活動が委員のみにとどまらないよう、「まちづくりプラットフォーム」を組織し、都市計画やまちづくりに携わる様々な人が参加できる研究会を企画している。平成18年度は北海道における「まちなか居住」の具体的方策を検討する研究会を、国土交通省や北海道開発局、北海道庁、北方建築研究所、札幌市、函館市とともに、札幌や地方中核都市における事業手法の検討などを主なテーマとする。H18年度に予定する、主な研究会の内容は以下の通りである。国土交通省または明治大学園田助教授の「まちなか居住」講演会および研究会を札幌で行う。本部都市計画委員会地方都市小委員会と共催で、「まちなか居住」研究会を弘前で行う。本部「まちづくり支援建築会議」との共催で、まちづくり研究会を行う。また、上記まちづくりの職能に関する研究会「まちづくりプラットフォーム」を継続して行う。

歴史意匠専門委員会（主査：伊藤 大介君 委員数 20 名、委員会開催予定数 5 回）

例年どおり、道内各地の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用に関する情報を委員間で共有して、必要に応じて学会として社会に発言できるような体制を準備する。2004年度から文化庁、北海道教育委員会に協力している調査が最終年を迎えるが、それを発展させる形で行ってきた特定課題研究も「北海道の近代和風建築における建築意匠の展開過程と地域の特徴」としてさらに継続する。また市民への啓蒙活動として、建築文化週間中の10月14日に「江別市内の歴史的建造物と煉瓦生産を訪ねる」と題する建築見学会を実施する。委員会内部の活性化を図るために、委員相互の研究交流や発表会を毎回の委員会の中で実施し、準備が整えば一般参加も可能な公開委員会の形に広げてゆくことも検討する。

北方系住宅専門委員会（主査：絵内 正道君 委員数 23 名、委員会開催予定数 5 回）

一般向けの普及活動を行うとともに、昨年度に引き続き取り組む課題、新たに取り組む課題について討議し、具体的に進めていく。1) 一般向け普及活動として社会資産として中古住宅をどのように市場活動にのせるか、古さの価値、住み続ける意義の面から討議し、みんなで考える集会の開催を計画する。2) 市民フォーラムを開催する。主として冬期の住宅地の道路・歩道(玄関先)、路上駐車、公園、公共施設などの雪処理のあり方を、ウインターシティーにおけるパブリックスペースの創造の一環として、都市計画家、景観建築家、行政者、学童遊戯施設研究者などを招聘しフォーラムおよびワークショップを計画する。3) 打合せのための委員会を開催。具体的な研究・活動の立案、学会支部などからの諮問に応える。

都市防災専門委員会（主査：南 慎一君 委員数 21 名、委員会開催予定数 2 回
(通信委員会、個別 WG 委員会等を含む))

本委員会の基本方針は、多領域、多地域に渡る防災関係機関(関係者)の連携を図ることにある。このため、委員会HPの運営及び防災ニュースの発行並びに災害委員会 HP への協力等を行い、支部会員及び本部災害委員会と連携した災害調査活動体制の強化を図る。調査研究では、構造専門委員会と合同で地震災害調査方法に関する調査研究を進める。また、他学協会と連携した調査研究、研究会開催を目指す。住民との連携については、建築文化週間事業の一環で「津波防災まちづくり体験学習」を太平洋沿岸地域で開催する。

4.3 特定課題研究委員会

(2006 年度より)

建築災害調査方法研究委員会(主査：後藤 康明君 委員数 9 名)

地震や台風などによる建物や人的被害の調査は、事象が発生してから直ちに行う初動調査(第 1 次調査)や、被害が落ち着いた数ヵ月後に行う詳細調査(第 2 次調査)などに分類される。特に、初動調査は迅速性が要求されるが、日本建築学会北海道支部では初動調査を行う体制を有していることから、これまで北海道で発生した大きな地震の際に中心的な役割を果たしてきた。災害調査においては、広域にわたる被災地に入って少ない人員で効率的に調査を行う必要があるため、その調査手法の良否が問われる。そのため、構造専門委員会では 1989 年に地震被害調査法研究委員会を発足して、1 次調査を対象に限定して被害調査方法を詳細に検討して、「地震被害調査法研究委員会報告書」としてまとめた。その委員会から既に 15 年余を経過して、その間兵庫県南部地震など国の方策を変更させるような巨大地震も発生し、また、全国に K-net のような強震観測網が設置されるなど建物に対する認識や地震観測体制が大幅に変化している。さらに、電子情報工学の発達により、伝達手段のモバイル化、およびユビキタス指向により、利用できる有用なシステムデバイスも増えている状況にある。

そこで、最近行われた建築関連の災害調査の考察や関係分野の情報収集などによって、既往の地震調査方法を見直し、より効率が高く精度の良い災害調査を行うための手法を確立するための研究を行う。この委員会では、2004 年 9 月に北海道で台風 18 号による災害が生じたことを鑑み、災害の原因を地震に限定せず、台風や大雪などの自然災害時に一般に適用できる災害調査方法の確立を目的とする

北海道の近代和風建築調査研究委員会(主査：羽深 久夫 委員数 14 名)

平成 16~18 年に文化庁・北海道教育委員会で行われている北海道近代和風総合調査において道内 14 支庁ごとに住宅・公共・宗教・産業・その他の建築についての建築名称・所有者・所在地・建築年代・建築種類・資料の有無・設計者及び施工者・位置図と写真撮影と建築的特徴の所見による 1 次調査をもとに平面図作成のための実測調査を行ってきたが、各地域ごとの各建築の設計者や施工者が明らかになるにつれ、個々の改築改修過程の他に、道内各地域間の建築的特徴の関係性についても検討すべき課題がみられた。全道的な悉皆調査により遺構確認作業を踏まえた基本台帳整備は進みつつあるが、未調査の市町村の調査を行い、基本台帳の整備を一層深め、北海道における近代和風建築の総括的かつ詳細な検討が必要であり、行政機

関や地域住民とともに連携して防災的見地からも保存活用を図ることも急務である。平成 16 年度から 2 年間にわたる特定課題研究「北海道の歴史的建造物における和風意匠の展開過程」を踏まえ、全道的視点から精緻な近代和風建築の地域的な特徴と地域相互間における建築的特徴の相関関係を明らかにしたい。

(2005 年度より)

寒中コンクリート施工調査研究委員会（主査：深瀬 孝之君 委員数：13 名 委員会開催予定数 6 回）

1) 研究目的

本研究委員会では、実施工で適用している調合計画手法・強度管理手法などに関する調査ならびに実績データの収集を行い、現行指針の技術的な課題を抽出することを主な目的とする。また、2008 年度に予定されている寒中コンクリート施工指針の改定に向けて、本委員会の活動内容を関連する本部委員会に提案することとする。

2) 研究方法

2005 年度において、寒中コンクリートにおける調合手法の利用状況や現行指針に対する評価などを把握するために、道内のプラント・施工会社を対象としたアンケート調査を実施した。

本年度は、アンケート結果を分析し、寒中コンクリートに関する技術的な課題を抽出する。また、必要に応じて追加調査などを行い、その課題解決に向けた活動を行う。

3) 成果の予定

アンケート分析結果

寒中コンクリートに関する技術的な課題解決に向けた提案
尚、最終成果は 2007 年度北海道支部研究発表会等で公表する。

4.4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2005 年度より)

中高層マンションの外断熱改修委員会（主査：佐藤 潤平君 委員数：14 名 委員会開催予定数 5 回）

本委員会 2 年目の 2006 年度は、主として、外断熱改修マンションの実施例について調査分析を進めた前年度に引き続き、外断熱工法など、改修技術の分析を行う。また、いくつかのタイプの分譲マンションを想定して、外断熱改修を実施した場合のコストシミュレーションを行い、中高層民間分譲マンションの外断熱改修の実現に向けた普及資料を作成する。作成した普及資料を活用して、マンション住民や管理者及びマンションに携わっている技術者を対象したシンポジウムや講習会の開催を予定している。

4.5 特色ある支部活動

積雪寒冷気候を生かした低コスト貯蔵技術による農業生産環境改善への貢献（主査：石田 秀樹君 委員数：8 名）

寒冷地には、無尽蔵とも言える雪や寒さを利用した伝統的な貯蔵技術がある。また、近年、伝統技術を活かした低コスト・低負荷で長期貯蔵を可能にする貯蔵法の開発が進みつつある。これ等の技術を活かした貯蔵施設を、農家単位もしくは共同で設置し、出荷の季節間調整や、直販用の短中期的な貯蔵に利用することができれば、生産・消費の双方にとって魅力ある農業の発展に貢献できると考える。

5. 支部研究発表会

5.1 支部研究発表会実行委員会（主査：千歩 修君 実行委員会委員 17 名、委員会開催予定回数：5 回）

支部研究発表会を企画・運営することを責務として支部研究発表会実行委員会が設置されており、この委員会の主な活動内容を以下に示す。

- 1) 支部研究発表会日程と会場の決定
- 2) 支部発表会の論文原稿種別、発表形式の確認、決定
- 3) 論文執筆要領の作成と原稿募集記事の建築雑誌掲載および原稿募集事業の実施
- 4) 特別企画のテーマ募集事業の実施および特別企画テーマの選定
- 5) 論文原稿の受付・編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成および建築雑誌掲載記事の手配
- 6) 支部研究発表会事業の実施

5.2 支部研究発表会の実施

2006年度の研究発表会は以下のように予定されている。

論文締切り：4月21日（金）消印有効

開催日時：7月1日（土）

場所：北海道東海大学芸術工学部（旭川）

6. 表彰

6.1 北海道建築賞

(1) 賞の概要

建築作品をささえる「先進性」、「規範性」、「洗練度」の3つの視点から視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰を行い、より一層の建築創作活動の促進を図る。

(2) 北海道建築賞委員会の実施

上記の方針で委員会を実施するが、以下のようにスケジュールの変更を行う。

- 1) 第31回北海道建築賞授賞式・講演会：2006年10月21日（土）
2007年度以降は、10月の建築文化週間内での行事とする。
- 2) 第32回北海道建築賞の応募期間：2007年4月15日? 5月15日
2007年度以降は、この期間を応募期間とし、7? 8月を審査期間、9月の常議員会に受賞者の報告を行った後、10月に授賞式・講演会を行う。
- 3) 2007年5月の総会では、前年度の授賞式・講演会の報告を行う。
2008年以降の総会では、前年度の受賞者の報告を行う。

6.2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

(1) 賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工高の卒業設計優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

(2) 卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2006年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2005年度と同様、2006年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に、各部門、金、銀、銅、各賞を選出する。

また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

6.3 優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

6.4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

7. 北海道建築作品発表会

7.1 北海道建築作品発表会委員会（主査：小篠 隆生君 委員3名 実行委員10名 委員会開催数6回（実行委員会2回を含む））

2006年度の目標は、事業収支の改善である。発表登録費の見直し、作品集コストの検討などを図り、可能性を検討し、実施できる部分より着手することである。建築作品発表会は、北海道支部の特色ある事業という認識に立ち、北海道の建築の質の向上に寄与することが重大な使命であり、建築作品を発表することによる情報発信とそこで行われる議論の蓄積と充実は、他の建築系諸団体にとっても最良のCPDのコンテンツ供給であると認識して、その質を高めることを今年も目指していきたい。

7.2 北海道建築作品発表会の実施予定

作品の応募時期：8月下旬～9月下旬
作品集原稿締め切り：10月中旬
作品発表会開催時期：12月初旬の中の1日間
作品発表会開催場所：北海道立近代美術館講堂（予定）

8. 特別委員会

8.1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査、事業主査連絡会担当常議員 予定開催数：複数回）

事業系5委員会の事業進捗状況とその際の問題点等を適宜把握し、意思決定機関である常議員会へ改善提案等を行っていくための役割を今後も果たして行くような活動を行っていく。さらには、各事業が連携しつつ活性化が計れる可能性を検討する。

8.2 総務委員会（委員長：羽山 広文君 委員数4名 予定開催数2回）

本委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により支部の財政状況がさらに悪化していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに、事務局業務の効率化、会議室の有効利用についても適宜検討を継続的に行っていく。また、日本建築家協会北海道支部との合同事務所の運営、合同企画についても検討を行う。

総務委員会(2006年度)（予定）

委員長 羽山 広文君 北海道大学 (教育機関の常議員経験者)

委員 那須 豊治君 岩田建設 (民間機関の常議員経験者)

- ” 福島 明君 北海道建設部 (行政機関の常議員経験者)
- ” 藤原 智史君 北海道電力 (留任常議員)
- ” 未定 (新任常議員)

8.3 ホームページ管理委員会（主査：高橋章弘君〔交代予定〕委員数：2名）

本委員会は北海道支部のホームページの維持管理することを目的としている。本委員会は2名の委員で構成され、委員会開催は特に設定していない。2006年度は、前年度に引き続き掲載内容を随時更新し、支部会員間の情報の共有を進展させるとともに、一般住民に対しても広く支部活動のPRを行うため、各種委員会の活動状況、及び各種行事の案内・成果などを迅速に広めるなど、掲載内容について更なる充実を図る予定である。

9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

9.1 本部主催講習会

2006年度本部主催支部共通事業講習会を開催する。

9.2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

9.3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

9.4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

10. 本部関連事業・その他

10.1 2006年度支部共通事業設計競技の実施（主査：川人 洋志君 委員数5名 委員会開催予定数1回）

2006年度設計競技審査委員会の委員には、主査川人洋志、委員、赤坂真一郎、小西彦仁、那須聖、山之内裕一の5名で行う予定である。2006年度の課題は「近代産業遺産を生かしたブラウンフィールドの再生」と決定され、7月中に支部審査を行う予定である。なお、昨年度、北海道支部より最優秀賞受賞と言う快挙を成し遂げたことから、昨年以上の応募数確保のため、各大学関係者に参加の呼びかけをする予定である

10.2 作品選集支部選考部会（主査：佐藤 孝君 委員数9名）

2006年度も、6月の本部委員会の決定事項を受けて、支部では7月から8月にかけて部会を開催予定である。「作品選集」掲載数はその総数が100題以内と決まっており、各支部から本部委員会への推薦数は、支部への応募数に応じて決定されている。つまり支部への応募数が多いほど、本部への推薦枠が多く獲得できるわけである。2006年度は、支部会員にさらに周知徹底を図るこ

とで、質の高い作品がより多く応募されるものとしたい。

10.3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の2件を予定している。なお、本事業は本年度に限り後述の日本建築学会創立120周年記念事業の一環として位置づけている。

1. 「津波防災まちづくり体験学習」 (都市防災専門委員会)
2. 「江別市内の歴史的建造物と煉瓦生産を訪ねる」 (歴史意匠専門委員会)

10.4 日本建築学会創立120周年記念事業/支部担当行事

本会は1886年4月に造家学会として設立し、本年4月に創立120周年を迎えた。建築界をとりまく社会的背景と本会への期待を認識し、今後を展望し、新たな飛躍を期して、各種の事業を企画している。当支部においては以下の行事を計画する。

- 1) 北海道支部会員対象：提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」
(共催：NPO法人アートチャレンジ滝川、後援：滝川市)
募集期間：2006年7月1日～8月31日
展示期間：2006年9月4日～9月14日 会場：滝川市/太郎吉蔵
- 2) 滝川市民対象：写真コンクール「滝川市の魅力と美しさ」
(共催：NPO法人アートチャレンジ滝川、後援：滝川市)
受付期間：2006年7月1日～8月18日
展示期間：2006年9月4日～9月14日 会場：滝川市/太郎吉蔵
- 3) 滝川市小中学生対象：絵画コンクール「こんなまちにすみたいな - 滝川市の理想像」
(共催：NPO法人アートチャレンジ滝川、後援：滝川市教育委員会)
受付期間：2006年8月21日～8月22日
展示期間：2006年9月4日～9月14日 会場：滝川市/太郎吉蔵
- 4) 会員・市民対象：作業所見学「北8西3東地区第1種市街地再開発事業施設建築物」
(協力：大成・東急・スミセキ共同事業体)
実施時期：2006年8月上旬予定

11. 建築関連団体との活動

11.1 AIJ-JIA 合同委員会(運営委員、企画委員会)(委員数(AIJ)：常任6名、委員会開催予定数6回)

引き続き、日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、合同事務所の運営および合同で行う企画について協議する。ジョイントセミナーについても継続して行うように計画を進める。また、北海道建築設計会議と連携して、関連団体を含めた企画等の活動を積極的に行う。

11.2 北海道建築設計会議

9団体により構成されている本会議は、CPD(継続能力開発)の共同化や、建築士制度のあり方、および建築士制度の問題をいかにして社会・市民に対して説明してゆくかについて、引き続き意見交換をおこなう予定である。

2006 年度収支予算案

日本建築学会北海道支部

収入の部					支出の部					
項目	予算額	昨年度	増減		項目	予算額	昨年度	増減		
交付金	計	7,929,000	6,983,000	946,000	事業費	計	4,875,000	5,105,000	-230,000	
	支部費	1,470,000	1,514,000	-44,000		調査研究事業費	830,000	860,000	-30,000	
	経営助成費	2,490,000	2,550,000	-60,000		表彰関係費	885,000	885,000	0	
	事業交付金	2,080,000	1,030,000	1,050,000		設計競技費	40,000	40,000	0	
	支部事務所費	1,589,000	1,589,000	0		卒業設計展示費	40,000	40,000	0	
	支部事務費	300,000	300,000	0		教育文化事業費	330,000	330,000	0	
副次収入	計	3,255,000	4,115,000	-860,000	特別事業費	計	1,340,000	290,000	1,050,000	
	シホジツ等収入	2,650,000	2,510,000	140,000		特別企画事業費	790,000	290,000	500,000	
	調査研究受託収入	0	0	0		特別記念事業費	550,000	0	550,000	
	雑収入	600,000	1,600,000	-1,000,000		会議費	計	320,000	245,000	75,000
	収入利息	5,000	5,000	0			総会費	240,000	175,000	65,000
				役員会費	50,000		60,000	-10,000		
繰入金	計	1,896,665	2,795,197	-898,532	事務費	計	5,250,000	5,330,000	-80,000	
	前期繰越金	1,606,665	2,505,197	-898,532		人件費	2,110,000	2,040,000	70,000	
	基金取崩金	290,000	290,000	0		通信費	260,000	310,000	-50,000	
						消耗品費	60,000	60,000	0	
						印刷費	30,000	50,000	-20,000	
					雑費	520,000	600,000	-80,000		
					事務所費	2,270,000	2,270,000	0		
				予備金	計	1,295,665	2,923,197	-1,627,532		
					基金積立金	0	1,510,000	-1,510,000		
				予備金	1,295,665	1,413,197	-117,532			
合計	13,080,665	13,893,197	-812,532	合計	13,080,665	13,893,197	-812,532			

基金・積立金内訳

2005年度末(決算)		2006年度末(予算)	
支部基金	3,510,000	支部基金	3,510,000
災害調査研究基金	2,200,000	災害調査研究基金	2,200,000
学術振興基金	4,110,000	学術振興基金	3,820,000
職員退職積立金	300,000	職員退職積立金	360,000

北海道支部地域法人正会員・賛助会員名簿
法人正会員

2006年3月末現在

会員番号	口数	会員社名・団体名	会員番号	口数	会員社名・団体名
00502-83	1	荒井建設(株)	00547-58	2	戸田建設(株)
00503-64	1	伊藤組土建(株)	00552-83	2	飛鳥建設(株)
00505-34	2	岩倉建設(株)	00553-56	1	(株)巴コ-ポレ-ション
00505-50	2	岩田建設(株)	00557-04	1	日鐵セメント(株)
00512-89	3	(株)大林組	00614-45	1	日本デ-タサ-ビス(株)
00512-97	1	(株)大林組	00555-50	1	西松建設(株)
00515-72	1	(株)岡田設計	00560-51	1	(株)日本設計
00617-89	1	(株)画工房	00561-82	1	日本防水総業
00567-92	2	北電興業(株)	00573-66	1	(株)三菱地所設計
00517-00	5	鹿島建設(株)	00625-81	1	(株)アトリエ・アク
00611-61	1	曾澤高圧コンクリ-ト(株) 技術部	00586-89	1	北農設計センタ-
00614-38	1	(株)ホ-ム企画センタ- 総務部	00597-74	1	(株)総研設計
00523-82	1	(株)熊谷組	00565-64	1	(株)フジタ
00530-03	1	(株)札幌日総建	00616-32	1	(株)北方住文化研究所
00568-23	2	(株)北海道日建設計	00568-07	1	(株)ドーコン
00673-45	1	桜井鉄工(株)	00618-60	1	北海道建築設計監理 (株)
00571-46	3	丸彦渡辺建設(株)	00568-15	2	北海道コンクリ-ト 工業
00540-41	5	大成建設(株)	00531-84	1	清水建設(株)
00575-10	1	宮坂建設工業(株)	00538-83	2	(株)田中組
00544-49	2	(株)竹中工務店	00545-54	3	(株)地崎工業
00674-76	1	(株)間組 札幌支店建築部	00674-50	1	(株)中原建築設計 事務所
00656-02	1	坂本建設(株)	00684-14	1	(株)三暁プレコン システム
00645-91	1	豊平製鋼(株)	00685-29	1	不二サッシ(株)北海道 支店
00651-49	1	(株)アイエイ研究所	00704-45	1	(株)アトリエ・ブंक
00651-65	1	(株)北文創	00704-09	2	(財)北海道建築指導 センター
00652-54	1	新太平洋建設(株)	00708-51	2	北海道旅客鉄道(株)
00659-11	1	(株)都市設計研究所	00701-51	1	(株)INA 新建築研究所 札幌支社
00662-76	1	(株)松原組一級建築士 事務所	00710-77	1	(株)久米設計札幌支社
00674-84	1	五洋建設(株) 札幌支店	00684-22	1	(株)北海道サンキット
00549-52	1	東急建設(株) 札幌支店			

賛助会員

会員番号	口数	会員社名・団体名
00814-70	3	北海道電力(株)
00810-06	1	道都大学附属図書情報館
00813-49	1	(株)NTT ファシリティ -ズ北海道支店 営業推進部
00815-01	1	北海学園大学附属 図書館
00815-19	1	北海道中央工学院 専門学校



社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0042 札幌市中央区大通西7丁目2
ダイヤビル 2階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765

E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

<http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/>